



先輩からのメッセージ

議題 新人職員のホンネ

年金局事業企画課調査室

栢 宏輝

私が数理職を志望した理由は、これまでに培ってきた数理的な素養を活かし、国民全員に広く関係する施策に携わりたいと考えたからです。

私の現在の主な業務は、年金事業の実績に関する統計資料の作成・公表、年金に関する統計調査の企画、他の部署や外部の方からの照会への対応などです。

自分が作成した統計資料がホームページなどで公表されてメディアで報道されたときは、責任を感じるとともに達成感も感じられます。

Q1

入省して感じたことは？



A

年金事業は社会からの関心も高く、一般の方、マスコミの方、地方自治体の方など様々な方からお問い合わせをいただく一方、その統計は複雑な制度を様々な用語を用いて集計しているため、正確に、かつ分かりやすく伝えることの難しさを痛感しています。



労働基準局労災管理課労災保険財政数理室

田中 悠介

私の配属された係では、データの収集や加工を行う傍らで、分掌となっている制度に関して省内外の人々とやりとりをします。そのため、技術的な内容だけではなく、関係する法令の知識を身につけることが求められます。法律条文の中には一文が1200文字以上からなるもの（労働保険の保険料の徴収等に関する法律第12条第3項）がありますが、上司や先輩に教えてもらいながら業務をこなす中で、少しずつ理解が深まってきました。

Q1 どんな業務を行っていますか？



A

労災保険制度では、自動車保険の等級制度の類似であるメリット制度や、リスクに応じて事業を分類する業種別率制度を設けています。かなり複雑な仕組みとなっているため財政設計も一筋縄ではいかず、数理職員が必要とされる理由のひとつです。



Q2 官庁訪問とはどんなものですか？

A

官庁訪問では訪問者側から質問する機会が多く用意されていますので、ご自身の疑問点や興味のあることについて教えていただければと思います。このパンフレットを執筆するに当たり、紙面上の都合で掲載できなかったものも多数ありますので、想像以上に興味深い話が聞けるのではないのでしょうか。

政策統括官付参事官（企画調整担当）付審査解析室

村上 知香

現在は、数理的な側面から統計調査の作成に携わっています。政策の明確な「エビデンス」として用いられる統計には、数字や数式に強い数理職の存在は必要不可欠だと日々実感します。

数理職の配属先は幅広く、必要な知識や技術も多岐にわたりますが、業務に携わる中で身につけることができます。数理職に少しでも興味を持った方には、説明会に足を運び、試験を受験していただけると嬉しく思います。

Q1

休日は何をしていますか？



A

映画鑑賞が好きなので、月に3回ほど映画館に行っています。また、連休に年次休暇を合わせ、定期的に帰省をして家族と過ごしています。暦通りに休むことができ、休暇制度を活用しやすい環境も整っています。



皆様と一緒に働けることを楽しみにしています！